

令和5年度「学校を核とした地域力強化プラン事業」成果報告会 開催報告

- 趣旨** 標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の報告をもとに「地域とともにある学校づくり」に関する情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の連携の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象** (1) 地域学校協働活動関係者（推進員、地域コーディネーター、ボランティア等）
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者（協議会委員等）
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者（行政担当者等）
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
(6) 県および市町の社会教育委員
(7) 社会教育士
- 日時** 令和6年1月19日（金）13:30～16:30
- 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室
- 内容**
 - ・報告① 甲賀市立貴生川小学校 貴生川小学校地域学校協働本部
「貴生川小学校における学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進」
～はじめよう やってみよう～
貴生川小学校地域連携担当教職員 福井 里江子 氏、推進員 沢井 譲 氏
 - ・報告② 米原市立米原中学校 米原中学校地域学校協働本部
「人をつなぎ、学びをつなぐ場面の創出をめざして」
～米原中学校（学校区）の地域連携について～
米原中学校 教頭 村居 雅道 氏、推進員 角田 義明 氏
 - ・講評：「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏
- 参加者数** 116名（来場39名、オンライン77名）

8 報告・意見交流・講評の概要

（報告）

貴生川小学校は令和3年度からコミュニティ・スクールとなった。学校運営協議会と地域学校協働本部を明確に構想図の中に位置付け、一体的推進を図ってきた。コミュニティ・ルームの設置や無理のない範囲でのボランティア募集、ボランティア交流会などを開催するなどの工夫による結果、「Help から Assist へ」を合言葉に学校支援ボランティアが自主的に企画したり、コミュニティ・スクール「ふるさと部会」と共に社会に開かれた教育課程を実現できたりしている。学校運営協議会の議事録や、ボランティアの募集などをHP上で広く情報発信されている。

米原中学校では、「人をつなぎ 学びをつなぐ」場面の創出をテーマに、子どもも大人も地域一丸となって地域と仲間、学びと学びをつなぐ場面を創出することを推進してきた。そのために保護者や地域住民がともに学校運営に関わり、推進員と学校がねらいを共有し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し、農園活動やかまどベンチ製作をはじめとするさまざまな活動を行ってきた。



子どもたちの自己有用感を高め、子どもたちの笑顔のために、これからも活動を継続していく。
(講評)

コミュニティ・スクールを立ち上げてからどのようにするかが問題である。何のためにコミュニティ・スクールに取り組むのか。持続可能な取組にするため、子どもの育ちというねらいがぶれないよう、焦らずに小さな変容を積み上げていくことが必要である。



9 参加者のアンケートより

- ・学校と地域が一体となった活動の丁寧な進め方が素晴らしかった。また、きちんと構想を練り、目指す方向や思いを共有しながら連携することの大切さを改めて感じた。何より「ボランティアさん・サポーターさんはお手伝いさんではない」という当たり前のことをはっきり言われたのが、すっきりした。
- ・貴生川小学校の先進的な取組は大変参考になった。学校と地域が win-win の関係になってはじめて一体的推進が進むのだと感じました。米原中学校区の取組においては、地域の特性（1 幼 1 小 1 中）を生かした活動だと感じました。核となる大きな取組でつながるのも良いなと思いました。市内にも広めていきたいと思えます。
- ・異なる市町の方と話すことができ、学びが広がった。管理職、コーディネーター、行政担当者など、役割の異なる者同士の意見交流も学びになった。事例報告には、「自分もがんばらな！」というエネルギーをいただいた。
- ・事例報告、とても勉強になった。地域や環境が違うが、地域の特色を生かして上手に活動しているし、やはり地域の中心、核になる方の存在はありがたいと思う。その方とうまく協力できればよい。やはり、予算と本部体制をしっかりとしていくこと、周囲の理解が大切だと思った。
- ・貴生川小学校の綿密な計画と米原中学校のかまどベンチの発表を聞いて感じたことは、両校とも子どもたちと地域の皆さんとの交流をよく考えておられると思った。コミュニティ・スクールは今以上に地域と学校・児童の交流を深めていかなければならないと思いました。
- ・事例報告は校区の取組が具体的で、大変参考になった。特に米原中学校の取組は、自分の居住地に近いこともあり、興味深く聞くことができた。自分の居住地である中学校区も、毎月の広報や回覧で熱心に取り組んでおられるとは思っていたが、具体的なお話を聞き、今後自分が何かできるのではないだろうかと思うこともありました。
- ・講評からは、改めて「何をめざしているか」「どんな子どもに育てたいか」「ぶれない目標」「委員や教職員がコミュニティ・スクールについて語るか」ということを、取組を進めていく中で常に振り返りながら進めていかなければならないことに気付くことができた。